

# ア！ 安全・快適街づくりニュース

## ——5月15日平成19年度総会開催——

「ア！安全・快適街づくり」は、5月15日に平成19年度の総会を開催し、19年度事業計画（案）・予算（案）、18年度事業報告（案）・決算（案）等の審議を行います。

### 新小岩公園の高台化をめざし、住民主体で論議を —「ア！安全・快適街づくり」平成19年度事業計画—

#### 平成19年度の事業計画

##### ●新小岩公園高台化の働きかけ

新小岩公園地域を地震・高潮・洪水による水害時に水没しないよう高台化し、一時避難場所兼救助救援基地化するよう住民の皆さんと一緒にって、国並びに東京都、葛飾区、江戸川区に対し働きかけを行います。

##### ●住民が水害に対する問題点と解決策を見つけ出すワークショップの支援

18年度に引き続き河川整備基金からの助成金が得られれば、新小岩モデル地区住民が居住地域の水害に対する防災上の問題点とその解決策を見つけ出すワークショップを支援します。

##### ●街づくりの実践的ワークショップ開催

19年度の全国都市再生モデル調査に、葛飾区の推薦を受けて応募し、街づくりの初步から始める実践的ワークショップを大学の研究者・学生などと協働して行います。

##### ●水害時避難・物資輸送訓練

水害発生時の人間・物資の輸送に利用するゴムボートにより避難・物資輸送訓練を行います。併せてそのボートを利用し、地元住民が水に親しむ機会を作ります。

##### ●見学会の開催

##### ●スーパー堤防と街づくり勉強会

##### ●全国川サミットへの参加

##### ●関係住民へのPR活動

広報紙、ホームページ、見学会開催（京島地区葛西水処理場等）による関係地域住民へのPR活動を実施します

事業名	内 容	実施回数等
情報収集	★スーパー堤防と街づくり勉強会 ★西新小岩地区住民との勉強会	4回 5回
地図作成 ケース・スタディ	★新小岩公園高台化の検討	1回 2回
広報広聴	★見学会の開催 ★ホームページの充実 ★災害救助用ボートを使った避難訓練 ★全国川サミットへの参加 ★ハザードマップ普及支援資料の展示	2回 1回 2回 6回
要望活動	★新小岩公園の高台化	2回
地区選定 手法研究	★街づくりに関する大学との共同研究	4回
広報紙	★広報紙の発行（2000部）	5月 10月

## 平成18年度 会計収支計算書

自 平成18年04月01日  
至 平成19年03月31日

(単位:円)

	予算額①	決算額②	差異 ①-②
<b>収入の部</b>			
1. 入会金及び会費	320,000	295,000	25,000
2. 事業収入	0	0	0
3. 補助金収入	0	0	0
4. 寄付金収入	300,000	320,000	△ 20,000
5. 雑収入	150,000	157,024	△ 7,024
当期収入合計 (A)	770,000	772,024	△ 2,024
前期繰越収支差額	616,549	616,549	0
収入合計 (B)	1,386,549	1,388,573	△ 2,024
<b>支出の部</b>			
1. 事業費	420,000	256,296	163,704
情報収集	30,000	40,950	△ 10,950
地図作成	20,000	5,640	14,360
手法研究	30,000	0	30,000
地区選定	0	0	0
ケーススタディ	20,000	0	20,000
広報公聴	120,000	147,000	△ 27,000
シンポジウム	0	0	0
要望活動	50,000	0	50,000
広報誌	150,000	62,706	87,294
2. 管理費	300,000	226,284	73,716
通信費	80,000	76,106	3,894
会議費	40,000	45,028	△ 5,028
旅費交通費	0	0	0
消耗品費	20,000	3,328	16,672
印刷製本費	150,000	96,362	53,638
水道光熱費	0	0	0
雑費	10,000	5,460	4,540
3. 予備費	50,000	0	50,000
当期支出合計 (C)	770,000	482,580	287,420
当期収支差額 (A)-(C)	0	289,444	△ 289,444
次期繰越収支差額 (B)-(C)	616,549	905,993	△ 289,444

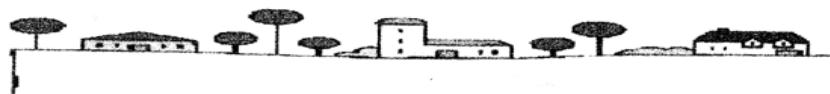


## 平成19年度 会計收支予算書

自 平成19年04月01日  
至 平成20年03月31日

(単位:円)

	予算額①	前年度予算額②	差異 ①-②
<b>収入の部</b>			
1. 入会金及び会費	320,000	320,000	0
2. 事業収入	0	0	0
3. 補助金収入	0	0	0
4. 寄付金収入	300,000	300,000	0
5. 雑収入	150,000	150,000	0
当期収入合計 (A)	770,000	770,000	0
前期繰越収支差額	905,993	616,549	289,444
収入合計 (B)	1,675,993	1,386,549	289,444
<b>支出の部</b>			
1. 事業費	420,000	420,000	0
情報収集	30,000	30,000	0
地図作成	20,000	20,000	0
手法研究	30,000	30,000	0
地区選定	0	0	0
ケーススタディ	20,000	20,000	0
広報公聴	120,000	120,000	0
シンポジウム	0	0	0
要望活動	50,000	50,000	0
広報誌	150,000	150,000	0
2. 管理費	300,000	300,000	0
通信費	80,000	80,000	0
会議費	40,000	40,000	0
旅費交通費	50,000	0	50,000
消耗品費	20,000	20,000	0
印刷製本費	100,000	150,000	△ 50,000
水道光熱費	0	0	0
雑費	10,000	10,000	0
3. 予備費	50,000	50,000	0
当期支出合計 (C)	770,000	770,000	0
当期収支差額 (A)-(C)	0	0	0
次期繰越収支差額 (B)-(C)	905,993	616,549	289,444



# 18年度の活動を振り返る

◇◇◇ 石川理事長に聞く ◇◇◇

(編集) 平成18年度は、NPOとして活動を開始してから5年目でしたが。

(石川) 街づくりの準備段階として、節目の年になったと思います。

NPOとして、最も重要な課題は、地元の皆さんのが安全・快適な街づくりの必要性を理解し、自ら地域の問題点とその解決策を見つけるために論議を開始することです。

ワークショップが開催されたことは、大きな意義がありました。

(編集) かなり参加者が多かったですね。

(石川) ワークショップに先立ち8月10日に水害に関する地域の実情を説明したのですが、その模様が9月1日のNHKスペシャルで放映されたことが一因です。第1回(12月16日)に40人、第2回(1月27日)に30名の熱意溢れる方が参加しました。

自助・共助・公助の考えに基づき、自分たちが何をすればよいかを考え、それを実行に移していく端緒になると期待されています。

(編集) 18年度も当NPOの重点事業として、葛飾・江戸川両区に水位表示板設置を働きかけてきましたが。

(石川) 葛飾区では、荒川流域を中心に、電信柱180本に水位表示をする方針が打ち出され19年度に実施されます。

江戸川区では、18年度で小学校64箇所、中学校29箇所と公園46箇所に水位表示が進められ、19年度では事務所6箇所、駅広、中川堤防等に水位表示が設置されます。

(編集) 水位表示の設置は随分進みましたね。

(石川) これにより、自分がどの高さの所に避難すればよいかの見当がつきます。

地元の認識が高まり、さらにワークショップにより防災・減災の心構えを持って頂ければ、街づくりの活動を担う地元の人材が増えていくと思います。

(編集) 19年度は、地元の皆さんの活躍が期待出来ますね。有難うございました。

# 平成18年度の活動

## 1. 総会・評議員会の開催

平成18年 5月16日(月) 平成18年度  
第1回総会・理事会・評議員会

## 2. 事務局会議

平成18年	4月19日(水)	第46回
	5月10日(水)	第47回
	6月21日(水)	第48回
	7月19日(水)	第49回
	8月25日(金)	第50回
	9月14日(木)	第51回
	10月18日(水)	第52回
	11月24日(金)	第53回
	12月22日(金)	第54回
平成19年	1月29日(金)	第55回
	2月14日(水)	第56回
	3月23日(金)	第57回

## 3. 新小岩公園の高台化検討資料作成

地域の広域避難場所の一つである新小岩公園は、水害時にはその機能を発揮できないので、そこを単にスーパー堤防化するにとどまらず、更に盛土により高台化し、一時避難場所及び救助・救援基地とすることについて地元住民の検討に役立つための資料の作成を行いました。

## 4. 水害時の避難方法・避難場所等を検討する

### ワークショップ開催支援

会員の加藤先生(東大)が河川整備基金から受けた助成金を使用し、共同研究者として石川理事長が参加しワークショップが開催され、当NPOが支援しました。

目的は、地震・高潮・洪水による水害時の避難方法、避難場所等を住民自身が考え、問題点と解決方法を探ることになります。

## 5. ホームページ部会

平成18年04月28日(金)
08月28日(月)
10月18日(水)

## 6. 見学会

平成18年09月28日にNPOの会員と葛飾区・江戸川区の住民合わせて25名が参加し、南千住の「白鬚西地区」を見学しました。

# 「今後のNPOの活動を考える」

△△△△△ 深倉副理事長に聞く △△△△△

## —地元から積極的に問題提起・提案を—

(編集) 9月1日のNHKの特集番組で、「海拔0メートル地帯における地震水害」というタイトルで、当NPOの活動もからめて報道されましたね。

(徳倉) 当NPOの出番は少なかったのですが、町会の人が主役になって地元の関心の高まりがよくわかる内容でしたのでよかったです。

(編集) 大地震と高潮が重なった場合には、東京の河川護岸に液状化現象により損壊が生じ、東部低地帯に侵水する可能性があると報道されました。東京都は、国内で過去最大の被害が生じた伊勢湾台風の高潮や東海豪雨の降水量を想定し、さらに阪神・淡路大震災を踏まえた耐震基準で防潮堤や河川護岸の整備を進め、10年程度後に完成する予定です。このため、「この報道は、徒に地域住民の不安を搔き立てるものだ」という見方もあるようですが。

(徳倉) 東京都は、想定される災害に対しては、最大限の対応をしてきてています。

しかし、地震による液状化現象の恐れがあるといわれる荒川以東のゼロメートル地帯(スーパー堤防未整備)では、想定外の事態により洪水によらず堤防が決壊し、「地震水害」が起こることが想定されます。

これに対応するために、少なくとも人命の被害が生じないような対策を立てておくことは必要だと思っています。

(編集) どんな対策が考えられますか。

(徳倉) 新小岩地域では、住民の自助・共助により近所の3階建以上の建物を緊急避難場所として確保し、救助・救援基地との連絡がとれる体制を作ることが必要です。このためにも新小岩公園の高台化を急ぐべきだと思います。

当面は緊急避難の方法等を中心にして、地元の住民がワークショップで論議しています。

(編集) 地元の皆さんがあつ勢参加されましたね。

(徳倉) そうですね。次のワークショップが待ちどきしいといった声が出るくらいに、地元の皆さんがあつ热心に取り組んでいます。

(編集) ゴムボートと救命胴着を大成化工さんから寄付されるそうですね。

(徳倉) 東西新小岩の7町会に3隻ずつのゴムボートと1隻当たり4着ずつの救命胴着をワークショップ終了時に寄付することを提案しました。緊急

避難場所と救助・救援基地とを往復するためのものです。

これを住民に保管していただき、水上訓練を行うと共に、水辺に親しむことにも役立てていただきたいと思います。

(編集) ワークショップでは、引き続き具体的な課題が論議され、新たな活動に取り組む契機になるでしょうね。

(徳倉) 今後地元の人が積極的に問題提起や提案をされることを期待しております。

(編集) 副理事長も「東京都地域防災計画」に対する意見募集に応じて「新小岩公園の高台化」を19年2月に提案されましたね。

(徳倉) 新小岩公園を高台化して、救助・救援基地化することは緊急性と必要性が高いと思います。私も街づくりのNPOの立ち上げに係わった地元の一人として自ら行動しなければと思い徳倉私案として提案しました。

(編集) 東京都総務局総合防災部には、どんな内容で提案されたんですか。

(徳倉) 「荒川以東の東部低地帯に住む120万都民の命を水害から守る」ために7項目の実施が必要だと主張しました。

1. 水位表示板の設置
2. 水没しない建物の確認
3. 近隣住民による避難の合意形成
4. ゴムボート・ライフジャケットの配備
5. 水没しない高台(救助救援基地)確保
6. 避難建物から高台への自助・共助活動
7. 住民の要望に基づくスーパー堤防建設  
(堤防決壊防止と避難場所の増加)

(編集) 今後の当NPOの活動を考える上で大変実際的で、重要な提案ですね。

(徳倉) ワークショップの論議が更に発展すればたたき台として活用されると思います。

(編集) 当NPOの中心メンバーである伊東春海さんも「利根川水系河川整備計画の策定に係る公聴会」(本年2月開催)の公述人として出席され、スーパー堤防を構築するよう要望しましたね。

(徳倉) 同様な動きが続くことを期待しています。

(編集) 今後ますます、副理事長の役割が重くなりますね。有難うございました。

# ワークショップ 「水害に対して皆さんが何ができるかを考える」

平成16年度に当NPOが内閣官房都市再生本部から受託して「水害・地震水害対策支援システム」が開発されました。このシステムをさらに利用しやすくして一般化するため、18年度から河川環境管理財団の河川整備基金による研究助成を受け、新小岩地域の有志の方々とワークショップを実施しています。このワークショップは、このシステムの開発を担当された加藤孝明先生（東大大学院）を中心とした若手研究者により、当NPOの全面的な協力のもとに運営されています。直接コーディネーターとして指導された加藤先生に2回にわたるワークショップの様子を報告していただきました。

## 第1回テーマ「水害の危険性を自分の問題として理解する」

コーディネーター 加藤孝明（東京大学大学院）

### A. 災害状況をイメージする

18年12月16日に地元の方40名が参加して開催されました。

新小岩地域における水害の危険性に関する状況を共有していない状況で、「いつもの土曜日に水害によって水が出ているという話を聞いた」場合を想像して、時系列で自分自身の行動を考えてみました。

議論に先立ち、与えられた情報の信頼性について質問が出され、正しい情報を得ることの重要性が確認されました。

皆さんのが示した行動をみると、①水害についての情報を集め、②避難の準備をし、③避難するという行動パターンは共通していますが、いつごろ危険な状況になるのか、いつ、どこに避難するかといった点については、いろいろな考え方がありました。

特に避難する場所については、「自宅に待機する」と「学校」に大きく分かれました。

「近くの高いマンションに避難する」と答えた方も数人いらっしゃいました。

最も多いパターンは、①水害情報の確認、或いは、外の様子を確認、②貴重品・食料等を2、3階に上げる等の避難準備を行い、③そのまま自宅に待機するか、学校に避難する、というものでした。

「2階でじっとしていれば大丈夫」等、自分のところは、平気である、または避難しても仕方がないという方もみられました。

議論の過程では、被災経験のある方が体験談をお話され、被災経験から学ぶことの重要性が再確認されました。

### B. 災害状況を類似体験する

伊勢湾台風の被災地等の過去の被災状況を石川金治さんの解説付きで見ました。

実際の水害の状況を見ることで改めて水害の実態を確認することが出来ました。

それに引き続き、GIS（地理情報システム）を用いて新小岩地域の浸水状況をシミュレーションによって確認しました。刻々と浸水していく家屋の様子が分かり、いつ、どこに避難するべきか、考えるきっかけになったのではないかでしょうか。

街歩きでは、地盤沈下によってゼロメートルになってしまったことを再確認し、さらに浸水したときの水の流れをその場で想像しました。

どのように水が流れていくか、家屋にどのように浸水していくかを話し合っている様子が見られました。

いつも見慣れている街を違った観点で観察できたのではないでしょうか。



コーディネーターの加藤先生

## C. 水害の危険性を自分の問題として理解する

各テーブルに分かれて、今回のワークショップで考えたこと、今後考えていかなければならぬことを整理しました。

新小岩地域の水害に対する脆弱性が理解でき、「個人として、また地域として何らかの備えをしていかなければならない」といった意見が出されました。また、「地域のもっと多くの人にまちの脆弱性について理解してもらい、安全に避難できるまちにしていくべきだ」といった今後につながる意見がだされました。

その一方で、現在の行政の水害に対する備えや堤防の強さ等、行政の防災対策を知る必要があるとの課題が示されました。

ワークショップの様子



(左)新小岩公園の裏手から現場調査開始



(右)中川堤防上から平井大橋を望む



(左)各班ごとに代表して発表



(右)熱心な討議が続く

## D. まとめ

第1回の目標である「水害の危険性を自分の問題として理解する」ことは概ね達成されたのではないでしょうか。次は、新小岩を安全なまちにしていくために、個人として、まちとして水害に対してどう備えていくべきかが課題だと思われます。

最後に水害の被災経験のある人間国宝で江戸小紋の小宮さんから経験談をいただき、過去の経験から学ぶことの重要性が再確認されました。



# 第2回ワークショップ

## テーマ「地域の防災体制を確認し、自助、共助の考えるべきことを明確にする」

コーディネーター 加藤孝明（東大大学院）

19年1月27日に30名強の地元の方が参加し、第2回のワークショップが開催されました。当日は、前回に引き続き、人間国宝で江戸小紋の小宮さんも参加され、また環境計画が専門の法政大学の神谷さんが特別参加されました。

### A. 「自助、共助、公助」の理念 と「自助、共助の重要性」

第1回ワークショップの中でも登場した「自助、共助、公助」、ここではその意味について理解を深めました。

個人、町会、行政のすべての主体が防災に取り組むべきだというのが基本的な意味です。しかし、それだけではありません。

「自助、共助、公助」の全ての主体が、地域で起こりうる災害状況像を理解し、その上で、それぞれの責任分担、役割分担を相互に理解し、それぞれのできることを進めていくということを意味しています。

防災における公助の役割はとても大きいのですが、それだけでは町の安全は確保されません。自助、共助の頑張りがあってはじめて、町の安全が確保できるということを改めて確認しました。

### B. 「公助」の防災体制を知る

第2回のテーマ「自助、共助で行うべきこと」を考える前に、「公助」の防災体制とその限界について良く知る必要があります。

ここでは、国土交通省荒川下流河川事務所の森久保さんと葛飾区水防担当の三浦さんにそれぞれ「公助」としての取り組み状況について説明を受けました。

国土交通省荒川下流河川事務所の森久保さんは、「河川行政を取り巻く環境の変化と荒川の治水設備の概要」というタイトルで講演をいただき、荒川の治水を軸に様々な内容を勉強しました。荒川の長い歴史をみると地域の発展は治水とともににあること、今の地域の繁栄は先人の努力の積み重ねのおかげであることを改めて感じました。

その一方で、最近の地球環境問題の影響による集中豪雨が頻発し、これに対応することが昨今の新しい課題になっていることを知りました。地球環境の変化を考えると、水害が発生する可能性が高まっています。更に市街

地の変化を見ると、地盤沈下や地下空間の増加等水害に対して脆弱になっていることを勉強しました。

こうした状況に対応する新しい対策が行われています。200年に1回の大雨にも対応できるスーパー堤防（緩傾斜の幅の広い堤防）の整備、「ハザードマップ」の普及促進、更に浸水時の水位や避難場所を示した標示を町中に立てる「まるごと町ごとハザードマップ」という対策等が流域で進められていることを知りました。

葛飾区水防担当の三浦さんからは、「区の防災体制」について説明を受けました。葛飾区の災害情報の伝達手段としては、ラジオ（かつしかFM）、防災無線、広報車、区のホームページと多様な手段が準備されていること。また平成19年度公開に向けて「洪水ハザードマップ」づくりが進んでおり、水位表示板の設置を予定していることを知りました。

古くから治水対策が行われていますが、地球環境の変化を考えると、水害の発生する可能性は十分にあります。水害に備えて治水だけではなく市街地側で備えることが重要です。

「公助」として、様々な対策が行われていますが、水害から生命、財産を守るために「自助、共助」の双方が重要ではないでしょうか。



## C. 重要なキーワード

防災を考えるとき、「経験」を活かすこと、「情報」入手することはとても重要です。しかし、一方で頼りすぎるのは危険です。

次に襲ってくる災害が以前と全く同じとは限りません。例えば、関東大震災で消火活動に成功しましたが、戦災で多くの住民の命が失われた神田佐久間町の例もあります。

また、情報を集めようとするあまり、避難開始時間が遅くなり、被害に遭ってしまうこともあるかも知れません。事実、最近の津波情報に対する人々の行動をみると、このことが示唆されています。「経験」と「情報」はとても重要ですが、頼りすぎることも危険であるということを確認しました。

## D. 自助、共助の考えるべきことを明確にする

「公助」の防災体制を理解したところで、次に各テーブルに別れて「自助、共助として考えることを明確にする」ことを目的に議論を行いました。

被災時に特に重要な次の3点、①情報入手手段、②避難場所、③避難手段に焦点を当てて考えました。その後で「自助、共助」で何ができるかという事について議論しました。

テーブル議論では、「避難する時に近所の人に声をかけて危険を伝える」、「要援護者を救助する」、「要援護者の所在を確認する」、「水害の危険を広報する」、「近所のマンションと避難協定を結ぶ」等、沢山の具体的なアイデアが出されました。

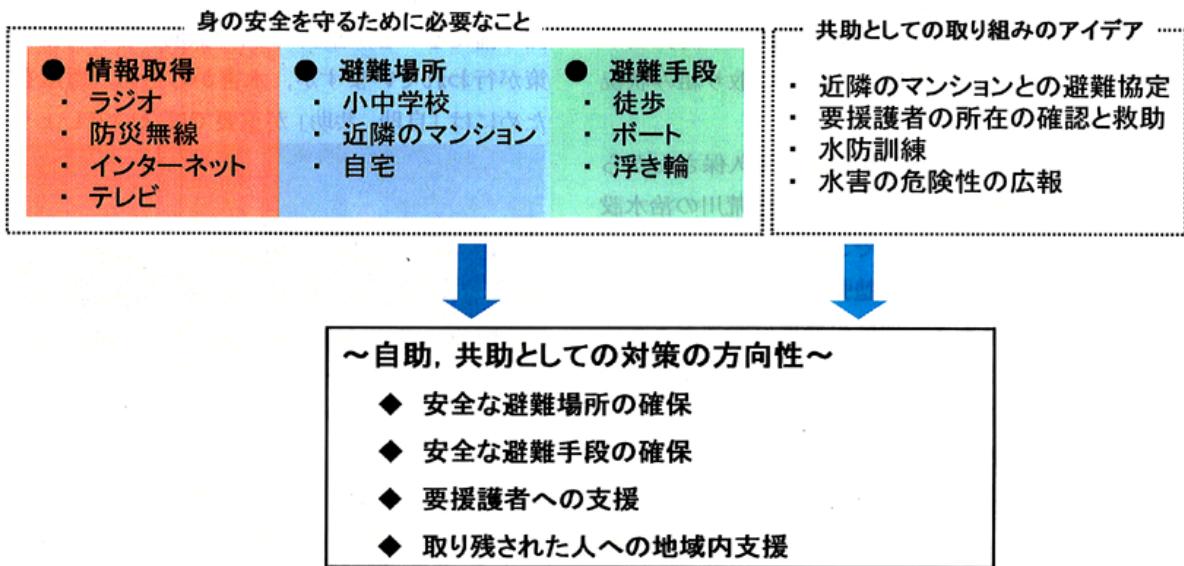
## E. まとめ

今回のワークショップでは、「公助」の防災体制を知ること、「自助、共助」で考えるべきことを明確にするという目的は達成出来たのではないでしょか。今後、「自助、共助」による具体的な対策に結びつけていくことが町会として課題ではないでしょうか。



第2回ワークショップ開催風景

### テーブル議論の取り纏め



## 利根川水系整備計画策定に係る公聴会 ～伊東春海さん出席～

国土交通省関東地方整備局は、利根川水系の河川（利根川・江戸川・中川・綾瀬川等）をおおむね30年間で整備する計画を策定する方針です。

この整備計画の原案を作成するに当たり、広く関係住民から意見を聴き、これを極力反映して計画を策定するため、公聴会を本年2月に開催するため、意見を開陳する公述人を募集しました。

これに対し、当NPOの中心メンバーである伊東春海さんが応募し、「利根川・江戸川」と「中川・綾瀬川」について公述人として意見を述べました。

伊東さんのご了解をいただき、公述内容の概略を紹介します。

### 【公述内容の概要】

私は江戸川区に居住しておりますが、昭和22年のカスリーン台風来襲による大洪水に遭遇しました。

9月16日に利根川が埼玉県栗橋付近で決壊し、同月19日の夜には濁水が新小岩周辺にも流れ込みました。水位は大人の頭をも超すほどで、家族は屋根に逃れ、中学生だった私と兄は母の実家に疎開しました。

その後、傍を流れる中川は、伊勢湾台風の高潮被害や東海豪雨、さらに阪神・淡路大震災を踏まえて、河口から上平井水門まで防潮堤が築かれたので安心しておりました。

しかし、昨今の地球温暖化等によると思われる大自燃災害の頻発は、過去の災害を基準にした水防計画では、もはや不十分であることを証明しました。

ことに上平井水門上流の両岸堤は脆弱で、いつニューオーリンズのような悲惨な大災害が襲って来るかもしれないという不安がつきまとっています。

中川は、高砂橋より上流が国管理で、下流域は都の管理河川となっております。両岸の葛飾・江戸川区民百万人にとって管理区分などどうでもよく、上流から河口まで責任を持って安全を担保してくれることを切望するのみです。零メートル以下の地域を確実に安全にするため、従来にない高規格な堤防の構築を要望します。

## 石川理事長 門松河川局長を訪問

18年11月27日、石川理事長は門松武国土交通省河川局長を訪問しました。前夜に西日本各地を襲った記録的豪雨直後の対応で多忙な中にもかかわらず、親しく懇談され、同局長は17年11月江戸川区で開催されたシンポジウムや、都市再生本部の助成で実施された水害シミュレーション等の成果にも関心を示されました。

とくに当NPOも参加し、（財）リバーフロント整備センターが行っているスーパー堤防と東京東部低地帯の街づくり勉強会は、大河川沿いの木造密集地域の街づくりに貢献するとその成果に期待を示されました。

更にスーパー堤防は、防災性の向上に止まらず地域の再開発が伴うと環境が格段に良くなる街づくりなので、これからも西新小岩地区で息の長い運動を続けて欲しいと石川理事長を激励されました。

最後に「ゼロメートル地帯のスーパー堤防は、事業効果が高い上、水害時の緊急避難場所にもなるので、特段の整備促進を」と石川理事長が要望して懇談を終えました。



（左）門松武河川局長、（右）石川理事長



# 江戸川区「スーパー堤防整備方針」策定

江戸川区は、18年12月、「スーパー堤防整備方針」を策定しました。

方針策定の趣旨と水防対策の緊急性及びスーパー堤防整備の必要性についてその概要をご紹介します。

## 【方針策定の趣旨】

江戸川区は、7割がゼロメートル地帯にあるが、精力的に治水事業を推進し、近年は顕著な水害に見舞われていない。

しかし、昨今は、地球温暖化の影響を示唆する異常気象が頻発化し、日本のみならず世界規模でこれまでの予測をはるかに超える風水害を引き起こしている。

こうした、かって経験したことのない洪水や高潮への対策とともに、軟弱地盤にある河口低地部においては、迫り来る大地震の勃発への備えも急務となっている。

この危機を克服するためには、堤防を生命線として守られている宿命をしっかりと認識した上で、抜本的な対策を講じておくことが決め手となる。その中で、国土交通省が推進するスーパー堤防は、予想し得ない様々な自然災害に対して、極めて強靭な構造を有するものである。

スーパー堤防整備は、長い年月と莫大な経費を要し、沿川住民の理解と協力が不可欠となる協働の事業であり、その遂行には多くの困難が伴う。

しかし、かって先人たちは、荒川・新中川の開削断行などの幾多の苦難を乗り越え、この豊かな都市環境を營々と築き上げてきた。

このことに感謝し一層の繁栄を子々孫々に引き継いでいくことこそが、今を生きる我々の責務であるのはいうまでもないことである。

江戸川区は、この方針を基に区民との協働により、スーパー堤防整備に邁進する決意である。

さらには、この取り組みが、同じ危険に晒されている都市の共感を呼び、広く事業が展開・推進していくことを心から願うものである。

## 【江戸川区の水防対策の緊急性】

- ◇ 江戸川区は、区内の約7割がゼロメートル地帯であり、その壊れ鉢状の低地は、上流部を含めて堤防が一旦破堤すると壊滅的な被害を被る。
- ◇ 異常気象や地球温暖化による海面上昇により、これまでの予測を上回る、計画高水量を超える超過洪水や、異常潮位による高潮が発生することが現実的になってきている。
- ◇ 江戸川区は、関東大震災級の地震時において、液状化が発生する可能性が高く、河川沿いの低地部は甚大な被害が予想される。
- ◇ 江戸川区は、大水害になると避難する高台がなく、特に急に押し寄せる異常潮位の高潮の場合はいち早く避難できる緊急の避難場所がない。

## 【江戸川区におけるスーパー堤防整備の必要性】

- ◇ 現在の江戸川区を囲む堤防は、「過去最大の洪水や高潮、地震に対応できる堤防が整備してきた」が、過去に大水害を被って来た江戸川区においては、これまでの予測をはるかに上回る洪水、高潮、大地震に対して、「危機管理」として、「さらに堤防を強化」することが求められる。
- ◇ 予測をはるかに上回る急な異常潮位の高潮による洪水等に対し、いち早く避難できる高台のない江戸川区は、「危機管理」として、「緊急の避難場所になる堤防」が必要である。
- ◇ 強固な地盤を有する堤防上は「水害や震災に対する防災上の拠点」にできる
- ◇ 水害の際の「安全な避難経路」となる強固な堤防が必要である。
- ◇ 整備が必要な市街地の環境改善の契機になる。

## スーパー堤防



## 「あなたの手のひら」コンサート 当NPOが協賛して江戸川区で開催

3月22日に当NPOが協賛した「手のひらコンサート」がタワーホール船堀の大ホールで開催され、多くの方に深い感動を与えました。

このコンサートでは、詩画作家星野富広さんの作品である詩画集「あなたの手のひら」にオペラ作曲家仙道作三さんが曲をつけた作品が発表されました。

星野富広さんは、20代の中学校教師時代に俱楽部活動の指導中、頸椎損傷の事故に遭い、四肢を全廢するという不幸に見舞われました。

9年間の入院生活の間に、病室を飾ってくれた花々との心の会話を口にくわえた絵筆で表現することで、失いかけた生への望みを取り戻し、詩画作家となつた人です。

仙道作三さんは、現在、交響詩「川・三部作」を作曲中であり、既に「利根川332」、「多摩川138」の作曲は終えています。引き続き2007年10月に開催される「全国川サミット」で発表すべく「荒川・隅田川」の曲を作曲中です。

なお、このコンサートは、当NPOの中心メンバーである高田信一さんを代表とした「あなたの手のひら」実行委員会により実施されました。

## 伊藤良子さんがご子息と 詩画集「月明りの森」を出版

当NPOのホームページのトップを飾る絵でお馴染みの画家伊藤良子さんが、本年1月15日にご子息の詩に挿絵を添えた詩画集「月明りの森」を出版されました。

伊藤良子さんは、1981年第9回サロン・デ・ボザール大賞を受賞されるなど、慈しみと癒しを表現する画家として高く評価されています。

発行:新風舎 (03-3568-4946)  
¥1,470 (税込)

### ※サロン・デ・ボザール大賞

社団法人美術愛好会サロン・デ・ボザールは、わが国最大規模のアマチュア画家の公募展を毎年開催しております。2006年は34回展を東京都、NHK等の後援を受けて実施しました。

伊藤良子さんは、この展覧会の油絵部門で1981年に大賞を受賞されました。

渡辺喜代美さんが提案された「ワークショップで地域の安心安全快適を考える」より抜粋したものです

### 減災まちづくりワークショップ ——必要性と効用——

住民は、どのような災害であっても、生命や財産そして文化を守る減災に備え、日常の模擬訓練やワークショップで、自分たちの街、見慣れた地域を、減災という視点で改めて見直してみることが得策です。

- (1) 減災の視点に立ったリスクコミュニケーションは、いざ災害の時に役立つとともに、平常時の交流がコミュニティの醸成を助け、地域の活性化にも役立っています。
- (2) 災害に直面した場合、立派な計画や行動要領があつても、日頃考えていなかつことは速やかに実行できません。日常からの取り組みをベースに学習しておくことが重要です。
- (3) 地域、行政、地域の企業、NPOなどで協働して「減災まちづくりワークショップ」を実施することが出来れば、普段からのまちづくり・地域づくりに以下のような効果が生まれます。
  - ①事前からの備え=被害を軽減出来る街づくり・地域を担う人材づくり
  - ②地域の人材発掘、行政職員の問題解決能力向上
  - ③地域住民・企業等と行政職員との交流とコミュニケーション

**会員募集中です！**  
問い合わせ先 事務局 福嶋  
電話・FAX 03-3696-7480

発行	特定非営利活動法人 「ア！安全・快適街づくり」
	〒124-8535
	東京都葛飾区西新小岩3丁目5番1号
	Tel・Fax 03-3696-7480
E-Mail	tegami@banktown.or.jp
ホームページ	<a href="http://www.banktoen.or.jp">http://www.banktoen.or.jp</a>

